

第2回 新仲見世商店街アーケード未来検討ワークショップ

■議事録

<日時> 2019年2月19日 19:00-21:00

<会場> El Pasito (テレビのイマイ2階)

<参加者>

グループ1 商店街2名、沼津市3名 (商工振興課1名、まちづくり政策課2名)

グループ2 商店街5名、沼津市1名 (商工振興課)

グループ3 商店街4名、沼津市2名 (商工振興課、まちづくり政策課)

■ワークショップ1

<テーマ> ソフト面の活動は誰がやるべきか？

<出た意見まとめ>

ソフト・活動内容	商店街	行政	自分(個店)	その他(第三者)
・音楽イベント			1	3
・「コスプレの日」を不定期に設定し、コスプレイヤーの聖地とする			レインボー	1
・新仲見世の宣伝映像を撮影し、イマイさんの前で流す	2		1	1
・新仲見世ベジ(菜園) & フラワー(花園)をつくる			だいこん	1
・商店街シネマ、週末営業	2	1	1	2
・動物に触れるイベント	1			2
・夜は焚き火が使える、ぬくもり、ヒュッゲ	1			
・みんなの発表の場、商店街ギャラリー	1			2
・屋台で飲食、立ち食い、食べ歩きを提供			2	1
・定期的に夜市	1		1	2
・昭和慈愛の歌謡曲を流す(有線放送)	2			
・「懐かしの遊びの日」を設定し、お年寄りと子供の交流の場とする	1			
・ステージを設けてお年寄りや子供のカラオケ大会を実施する	1			2
・ドローンを飛ばす				2
・月を見る会				3
・星を見る会				3
・商店街プロレス				3

<考察>

- ・今回、自分(個店)の主体として手を挙げた参加者のモチベーションを商店街関係者や市役所からサポートしていくことで意見や主体性を出しやすい環境作りをしていく。
- ・本来ソフト面の活動は「商店街」「自分(個店)」が中心となって企画運営をすることが望ましいが、現時点では第三者に任せるといった認識が強い。専門的なスキルや知識は第三者のサポートが必要不可欠だが、まずは自分事として取り組む姿勢を保つことが重要。

■ワークショップ 2

<テーマ> ハード面の整備は誰がやるべきか？

<出た意見まとめ>

ハード・整備内容	商店街	行政	自分(個店)	その他(第三者)
・移動可能な座れるボックスやベンチ、テーブルを設置	3		2	
・ハンモックを設置	1			
・雨よけのための庇を設置する	2	1	1	
・電線地中化		2		
・シンボルツリーの植樹する		1		
・昭和レトロな植物（鉢物）を置く	1		1	
・ホーロー看板を商店街に設置する	1		1	
・大阪万博のような万国旗を吊るす	3			
・暗渠を地表に復活させる		3		
・街灯を設置する	1	2		
・格子状のアーケードを設置	1			

<考察>

- ・家具や装飾については「商店街」「自分(個店)」が中心となって設置を促す考えがある。
- ・行政に対応を求めるものとして、電柱地中化・植樹・暗渠復活・街灯設置が挙げられた。
- ・雨よけのための庇も統一して設置する場合には行政にて設置を検討してほしいとの意見が出た。

■総括

第2回ワークショップでは議論が先延ばしになりがちである「運営責任の所在」についてディスカッションを実施した。プロジェクトが完了間近までこの議論がなされず、オープンした直後にソフト運営の混乱を招き短期で取り組みが破綻する公共プロジェクトが散見される中、「宮崎県延岡駅周辺整備計画」や「東京都立川市子ども未来センター」ではプロジェクトが発足した初期の段階から、誰が・何の目的で・どんなことを・どれくらいの頻度でやりたいかを時間をかけて議論して、実際の必要に応じた施設整備を行い、ソフト面の活動も長期にわたって継続している。

今回の「新仲見世商店街アーケード未来検討ワークショップ」においても、今の段階からプロジェクトの「自分事化」を促す事で、射程の長い取り組みになる事を願って第2回のディスカッションテーマを決定した。

次年度以降も引き続き、ソフトの提案がしやすくなるように意見の言い合いやすい環境づくりが必要となる。